

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	わかりやすい理念が掲示されてはいるが、気になる「痴呆」の文字が使用されている事や「地域との関係性」等が盛り込まれていない。	○	地域との関係性を加えた理念の作成が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	サービス提供場面において、言葉掛けや態度等に理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議等を行い地域との交流に努力は見られるが、十分に反映されているとは言い難い。	○	事業所自体が地域の一員として、地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいくことが求められる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。		

宮崎県えびの市 グループホーム顔なじみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され、利用者の状況等を報告し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		会議の議題で自己評価、外部評価の内容に触れた検討がもう少し望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外、市担当者で行き来する機会はいま少しかがえない。	○	市担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝えていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり等は、毎月発送の手紙で報告をしている。		金銭出納帳については面会時の外に、定期的に説明し承諾を頂くことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、苦情については相談窓口を設け、意見箱も玄関に設置されている。また、当事業所の重要事項説明書にも記載されている。		意見箱以外にも、他の機関の相談窓口等を説明し、広く取り込まれることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務配置がローテーションのため、利用者がなじみにくく、また、職員も手がけた事など混乱を招くことがある。	○	基本的には各ユニットの職員を固定化し、なじみのある職員によるケアを心掛けていくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当事業所の情報提供票の記録でも研修受講の確認がとれ、また、ホーム内での定期的な勉強会、研修会等も実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との定期的な連絡会にも参加し、交流も積極的に行っている。		定期的な連絡会の外にも、事業所で選定したホームとの交換研修やスタッフ研修を設け、お互いのホームの質の向上に努めていくことにも期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に見学に来てもらい、入居説明も行っている。		スタッフが本人の自宅に出向いたり、事業所へ遊びに来るなどして、繰り返し意思の疎通を図りながら生活の安定を見極めて利用に移行していく取り組みも期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情からくみ取り把握するよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の尊厳を考え家族と一緒に介護計画について話し合い、意向やアイデアを取り入れ反映させていく介護計画作りができています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合の、その都度の見直しがされていない。	○	介護計画で対応できない本人、家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう見直ししていく検討が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じての、事業所の多機能性を生かす支援が十分でない。	○	利用者への柔軟な支援はもとより、近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイサービスを利用できるよう、多機能性の強化に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の外、かかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力して通院介助を行ったり、ホームへその都度の、また、週2回の訪問診療の実施ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けての対応指針を定め、家族、医師の外、関係者を交えての話し合いを行っている。		関係者全体で方針を統一していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	昼食時、排泄介助時の場面においても、一人ひとりのプライバシーを尊重した言葉掛けや対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

宮崎県えびの市 グループホーム顔なじみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は食事の準備段階から楽しい雰囲気を保ち、職員も全員利用者と共に食事をし会話が進み楽しみながらの支援ができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員のペースでなく、残存機能を生かしての入浴介助がなされ、利用者のニーズに合わせた支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画に個別の楽しみ事が記載されている。洗濯物やさまざまな片づけについても、利用者自らが取り組めるよう支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿っての外出支援が実施されている。		利用者の希望にこだわらず、外出支援は事業所の方針として考えることも期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は自由に出はいることができるように施錠はされていない。		玄関のチャイムやセンサーに頼り切らない支援の考慮も期待したい。

宮崎県えびの市 グループホーム顔なじみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防立ち入りの訓練とは別に、具体的な想定の下で、職員と利用者が一体となって行う定期的な取り組みがなされていない。	○	災害時対応マニュアル等を整備し、利用者を含めた防災避難訓練を繰り返し実施することで、利用者の行動がスムーズになり訓練の効果が表れることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事材料の魚類、芋類などの苦手な人にも食べやすいように味付けや調理方法に工夫がなされ、おいしく食事を取る支援がなされている。また、摂取量や水分量はチェック表を使用し摂取確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを育て楽しんだりしてゆったりと過ごしている。また、入浴時など窓の外は景観もよく、暖かい日は窓を開け外の空気に触れるなどして、五感で楽しむことができるよう配慮もしている。		一部のユニットで消臭剤の使用があるが、できるだけ使用しなくても不快な思いにならないような取り組みを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の部屋は本人の好みにレイアウトされ、掲示物、置物等は愛用していたものを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		

※  は、重点項目。